

平成29年度第2回社会教育委員会議会議録

平成29年度第2回社会教育委員会議会議録						
開催日	平成29年7月25日(火)			開会時間	14時00分	
会 場	市役所5階 503会議室			閉会時間	16時00分	
委員の 出欠状況	小林 榮	出	片山 義久	出	久米 隼	出
	西 貴美雄	出	川合 香代子	欠	板垣 隆夫	出
	小田原 紀慧子	出	本橋 ふみ	出	佐々木 麻由子	出
	鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	出		
	○村山 喜三江	出	南條 有希子	出		
	◎石山 貴宣	出	石原 規子	出	◎議長 ○副議長	
傍聴者	なし					
事務局	【教育委員会】 戸部教育長、星野教育部長 【生涯学習課】 横山課長、鈴木課長補佐、細野副主任、磯崎主任 【スポーツ青少年課 】 亀井課長					
議 題	1 議長・副議長の選出について 2 委員等の選出について ア 和光市図書館協議会委員の選出について イ 社会福祉法人和光市社会福祉協議会理事の選出について ウ 和光市人権教育推進協議会理事の選出について 3 平成29年度事業計画について(経過報告)【資料1】 4 社会教育推進に関する意見交換について					

1 開会

2 委嘱式

3 あいさつ

○戸部教育長

毎日大変厳しい暑さが続いておりますが、大変お忙しい中、平成29年度第2回社会教育委員会議にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、平成29年度としては、第2回目の会議となりますが、委員改選後、初めての会議となります。新たに委員になられた方、また、今期も引き続き、委員をお務めいただく方、ご多忙のところお引き受けいただき、本当にありがとうございます。

先ほど、委嘱状を交付いたしました、今回15名中6名の方々を新しく委員としてお迎えいたしました。委員の皆さまには、社会教育活動の実態や地域のニーズを、市民サイドから客観的に把握していただき、地域住民の社会教育の期待や願いについて、市民と行政のパイプ役になっていただきたいと願っております。

和光市の社会教育の充実のために、2年間ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、これからの各議題の審議をよろしくお願いいたします。

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

4 自己紹介

委員自己紹介

事務局自己紹介

5 議題

(1) 議長・副議長の選出について

- ・議長 石山 貴宣 委員
- ・副議長 村山 喜三江 委員

(2) 委員等の選出について

ア 和光市図書館協議会委員の選出について

- ・佐々木 麻由子 委員

イ 社会福祉法人和光市社会福祉協議会理事の選出について

- ・村山 喜三江 委員

ウ 和光市人権教育推進協議会理事の選出について

- ・板垣 隆夫 委員

(3) 平成29年度事業計画について(経過報告)【資料1】

○事務局

資料1「平成29年度事業計画」に基づき説明

○板垣委員

6月に第1回の社会教育委員会議を行い、そこで事業計画を説明し、委員から意見をもらっているのに、今回また事業計画について説明するのは、新しい委員がいるからですか。あるいは、もっと意見を言っても良いということですか。

○事務局

6月に、前任期の委員の方に平成28年度の事業報告と平成29年度の事業計画を説明いたしました。今回は、6名新しい委員の方もいらっしゃいますので、改めて平成29年度の事業計画を説明しました。また、四半期が過ぎましたのでここまでの事業の進み具合について報告しております。

ご意見に関しましては、すでに事業計画を立てているものもありますし、これから間に合うものもあります。すべて含めて、ご意見をいただければということで、議題とさせていただきます。

○板垣委員

2年間の任期の間の4回の会議が、それぞれどういうサイクルでいろいろな活動をしていくのか。また、6月に第1回の会議を行って、また7月に第2回の会議を行った理由は何があるのか。4回の会議ではどのようなことをやっていくのか説明して欲しい。

○事務局

年に2回開催する年と3回開催する年があります。3月末の会議では毎年、職員との共通認識を持っていただくような機会として、社会教育委員として行っていただきたいこと等の内容の研修会と意見交換を行っております。ただし、これは決まった形ではないので、ご意見をいただければ、今後の参考とさせていただきます。それも含めてご意見いただければと思います。

今年度は委員の改選がありましたので、6月に第1回、7月に第2回という形となりました。通常は、上半期・下半期と2回の開催となります。

○板垣委員

初回の会議で、2年間の4回の会議でこういった活動をやりますということを提示するべきだと思う。

○事務局

申し訳ございませんでした。

(4) 社会教育推進に関する意見交換について

○事務局

市町村の社会教育委員は、地域に密着しているという特性から、次世代を担う児童の健全育成、家庭教育支援、青少年団体活動の奨励、青少年教育等への関与と助力が期待されています。

今回の会議は、委嘱後初めての会議となりますので、委員の皆さまには自己紹介も兼ねて、これまでの活動や経験等をお話していただきます。また、任期期間(2年間)の会議において、委員の皆さままで話し合いたいテーマや受けたい研修の内容等をお一人ずつ伺いたいと思います。

○小林委員

37年間、朝霞市・新座市・和光市で教員として働き、昨年3月で定年退職し、今年度も4月から再任用として、和光国際高校(11年目)で社会科の教員をやっています。

長くこの地域にいらながらも、地域のために貢献することができなかったのが、社会教育委員として、地域のお手伝いができればと思っています。地域活動についてはわかっていないことが多いので、皆さんに色々教えていただいて、私自身も勉強していきたいですし、何かお役に立てることがあれば、協力していきたいと思っています。

【提案】

① 主権者教育について

一昨年に公職選挙法が改正され、今、高校では「主権者教育」ということが盛んに

言われております。「選挙への参加」ということが主に言われておりますが、本来、「主権者教育」というのは、地域社会に根差したものであるべきと思っております。そういう点で、特に小・中学校段階から、地域社会の中で自分がどういう役割をもっているのか、また地域社会の中での社会教育活動にはどのようなものがあるのかなどを知る機会がもっとあってもいいと思います。

和光国際高校の生徒は、様々な地域から来ていますので、自分の住んでいる地域と和光市を比較するなどということができればと考えております。

② 成年後見制度など「介護を支える制度」について

私自身、介護をしてきた中で、親族の「成年後見人」になりました。この制度にもいろいろ問題点がありますが、成年後見制度など「介護を支える諸制度」について知っていただき、介護を担っている家族を含めた人たちの助けになるような講座があったらいいと思います。

○西委員

平成33年度に小学校の学習指導要領、平成34年度に中学校の学習指導要領が全面实施となります。先日、小学校・中学校の学習指導要領の解説書が文部科学省より示されました。現在、3～4年かけて学習指導要領の変更に対応できるような学校教育の体制作りを進めていくという大事な所に差し掛かってきております。その中で、「社会に開かれた教育課程」という文言が大きくテーマとなっております。

私は和光市で30年ほど教員を務めさせていただいております。和光市へ来た当初は、「学校は学校の中で教育が完結する」という時代で、まわりの方々とほとんど関係を持つことはありませんでした。20年ほど前になると、学校に協力してくださる方が学校の中へ入ってきて、いろいろなことを教えてくださるようになりました。15年位前には、「学校を開いていく」という考え方が大切にされ、参観日を多く設けたり、学校がホームページで発信をしていったりして、地域の方々との関係を作りながら、地域が求めている学校というものがどういう学校なのかを手探りながら歩んできた状況がございます。

今回、学習指導要領の中で示されている「社会に開かれた教育課程」では、現在、皆さんが学校教育の中でお力添えいただいていることはもちろんのこと、学校の教育目標自体を地域の方々に十分知っていただき、地域とともにある学校づくりを進めていくなさということが求められてきています。

これから学校としては、より一層地域の皆さんの考えを把握しながら、それぞれの歴史や伝統を踏まえて、どのように自分の学校の子どもたちの教育を進めていくかという計画を立てていく段階となっております。

和光市でも今年度、白子小学校と新倉小学校の2校がコミュニティースクールとして指定をされました。地域の皆さんにお集まりいただき、学校運営協議会を実施しながら、学校の経営や運営について、いろいろなご意見をいただき進めているところです。

社会教育ではないものが学校教育、学校教育ではないものが社会教育であったのですが、今はその接点をいかに多く持っていくか、あるいは融合していくかということが大切な時代となっていると思っております。

学校としても、皆さまのそれぞれの立場からのお考えをぜひお聞かせいただきながら、学校教育の中で反映させていくことを考えていきたいと思っております。

○小田原委員

和光市には、学校法人の幼稚園が4園ございます。

幼稚園と社会教育というものをどのように繋げていけば良いのか、まだ整理が出来ておりません。

最近、「保育園ができると子どもたちがうるさい」などと話題になっておりますが、当園に関しましては、ご近所からのそのような声はまったくなく、和光市の皆さまからは応援していただき、温かい目で支えていただいていることをありがたく思っております。

子どもたちが幼稚園にいる間に遊びを通して楽しみながら、同時に人間関係・信頼関係を育て、これからの和光市を担っていく子どもたちを育てていくことが一番の課題だと思っております。

○鳥飼委員

和光市文化団体連合会では、地域の課題を重点的に事業を行っております。

去年は、和光市文化団体連合会40周年の記念として、講演会を行いました。

新倉小学校に爆弾が落とされたことが忘れられているので、戦後70周年記念として、また皆さんの記憶として残すために、70年前の当時のことを話しながら、新倉小学校で講演いたしました。学校・地域の方が大勢集まり、喜んでくださり大盛況でした。

今年は、四市の文化団体連合会の講演会を和光市で行うので、地域と密接な関係を持った内容の講演会を計画しております。

○片山委員

今年度より、新倉小学校のPTA会長・和光市PTA・保護者会連合会の副会長をやらせていただいております。地域のために何か恩返しをしたいという思いで、PTA会長を受けさせていただきました。

生涯学習課とは、3年前の協働事業提案制度で、当時、和光市商工会青年部の部長だった時に、「わこう郷土かるた」を作らせていただきました。読み句の部分と絵の部分、市民の公募で作ったものを、市内の小学校や公民館・児童館などに配らせていただき、今まで、3回の大会を行っております。すぐに定員が埋まってしまうほど大盛況の大会で、今年度からは、青少年育成和光市民会議の方で、和光市総合体育館サブアリーナをお借りして、もっと大きくやっていきたいと思っております。

三十数年前にあった「わこう郷土かるた」の内容が古くなってしまったので、今の時代に合ったものを子どもたちに残していきたいという気持ちで作らせていただきました。

個人的には、自衛隊体育学校の後援会に入っております。自衛隊体育学校には3年後のオリンピックを目指して頑張っている選手たちがおります。

あっという間に3年後になりますので、子どもたちも巻き込んで、オリンピックを成功させていきたいと思ひますし、今年の12月には、アジアエアガン大会が和光市総合体育館で行われますので、こちらも気運を育てていきたいと思ひっております。

市民の声を聞きながら、和光市をより良くして、子どもたちがより良く過ごせるような環境を作っていきたいと思ひっております。

○本橋委員

民生委員を11年やっておりますけれども、貧困であるとかは、支援サービスや教育が得られれば、少しでも立ち直ることができると思います。私たちが支援の手を差し伸べて、支援サービスがその人たちに届くような制度が重要と考えております。

○南條委員

現在、わこう子育てネットワークの中で、主にプレイパーク事業の担当をしております。ネウボラ課の事業として、お父さん・お母さん方に外遊びが有意義なことを伝えたり、地域の方の協力を得て、外遊び・身体を動かすこと、それが「楽しい」と思えることが、健やかな子どもの成長に繋がるということを楽しさの中から伝えていきたいということで、わこうプレイパーク事業というものをやらせていただいております。

その中で、気になるお子さんや、大変そうなお母さんには子育て支援という立場から声を掛けたり、何か問題があれば、しかるべき所へ繋げたりして、まさに市内で市民の手でネットワークを張って、そういった人たちをサポートしていく活動をしてまいりました。

また、大学の非常勤講師をやっており、18歳くらいの学生さんに講義をしております。

一母親として、新倉小学校に導入されました「わこうっこクラブ」というものは、大変素晴らしいと思います。今、保育クラブに預けられない、また、働く日数がパートタイム等で毎日預ける必要がないなど、働き方が多様化してきている中で、鍵っ子が増えているということのカバーしてくれる存在として、本当に素晴らしいなと感じました。子ども教室との連携もとても大切にして、安心・安全なカバーリングがされていることに感動しました。

そういったところが、和光市がとても力を入れて取り組んでくれている生涯学習の部分なのかなと肌で感じています。しかし、これだけたくさんの事業が行われているが、新しく和光市に引っ越してきた方にはまだまだ発信がされていない気がします。

今、副都心線が通って、高速道路のインターもあって、「すごく便利な和光市」として注目されているところだけに、こういったコンテンツがとても充実していることもアピールポイントになっていくのではないかと感じております。

○石原委員

平成19年に、厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」と文部科学省の「地域子ども教室推進事業」が連携した「放課後子どもプラン」が策定された時から、私は放課後子ども教室推進事業に関わっておりますが、当初は、学校がとても閉鎖的でした。

5～6年前から、学校がとてもオープンになりまして、先生方・保護者の方の絶大な協力を得られて、保育クラブでもない、塾でもない、毎日開催できる「わこうっこクラブ」という子どもたちの居場所まで出来たことを大変嬉しく思っております。

学校・地域・行政の3つで協働していくこと、また、子どもファーストで物事を考え企画を練っていくことが大切で、それが歪になると何かに影響が出てきます。コミュニケーションをしっかり取って、大人の都合ではなく、いつも子どものことを考え、少子化とは言われておりますが、ひとりひとりの子どもを大事に育てていくために地域の人に関わっていかないといけないと思います。

市長のマニフェストに「放課後子ども教室推進事業の充実」とあるように、毎日開催の「わこうっこクラブ」と、プログラム制の「子ども教室」をタイアップして、もっと子どもたちの

放課後の居場所を充実させていこうと思っております。

【提案】

多方面でご活躍されている方々が集まられているので、年2回の会議を、子どものため・地域のために何か実践につながるような会議にしていきたい。

○久米委員

今回は、和光市の外から一歩ひいた視点で、皆さんと一緒に和光市の社会教育について、いろいろと進めていけたらと思っております。

現在、10個以上の子ども関係のNPO団体に関わっており、理事長・理事などの役割に就いております。中でも一番長く関わっているのは、子どもの虐待の防止についてです。虐待の問題について長く取り組んでいますが、最近は子どもの虐待の問題でかなり深刻なケースが報じられております。年間で言うと、年間10万件以上(1日300件以上)の相談の電話が児童相談所に寄せられております。深刻なケースはたくさんありますが、一方で、虐待が深刻化する前にいかに防げるかというところで考えると、実は、虐待の中で一番重い「虐待死」のケースで言いますと、半分くらいが若いママ・パパによる虐待になります。どういったことかと言いますと、お腹の中で10ヶ月間、子どもを育てていく中で、きっと途中で解決策はあったとしても、なかなか支援の手にとり着けず、10ヵ月後に産んだときには手放してしまうというのが多い例のひとつです。

地域社会でなぜ10ヶ月間の間に、こういった若いママ・パパを見つけることが出来なかったのだろう、支えることが出来なかったのだろうと考えると、まさに、地域づくりやまちづくりと同じ課題となってくると思われます。

いろいろな事業がありますが、これらの事業に参加できない若い世代の方もたくさんいると思いますので、そういった人たちを、どうやって巻き込んでいくかというところを、行政の方と、市内のいろいろな団体の方と、市民の方と、いろいろな関係者を巻き込みながら、みんなで一緒になって考え、和光市というまちを作っていけたらと思っております。

○板垣委員

監査役の経験者と現役がほぼ半々集まった、300名程度の一般社団法人監査懇話会という組織の理事をやっているとして、講演会とか自主的な勉強会とか、そういった勉強活動も行っていますし、趣味の会などサークル的な活動もやっております。上は80代～90代の方も参加しております、我々60代が中心の組織です。

60代になってから、会社法とか金融商品法の勉強をやっています。強制されてではなく、自主的に勉強しておりますので、苦にならずに、非常に楽しく勉強をやっているという意味で、この会というのは生涯教育団体のひとつだろうと思います。

今まで、市民参加推進会議、図書館協議会、総合振興計画審議会の委員を務めていました。これらは、いろいろな活動を評価する立場から見えていたのですが、和光市の社会教育の状況を見ますと、青少年教育の活動は素晴らしい活動をしていると思っております。他市に比べても内容は先進的な取り組みを行っているという意味で進んでいると思う一方で、高齢者の対応というのはかなり手薄ではないかなという印象を持っています。

所属する審議会の関係で、各種審議会の議事録等を閲覧する機会が多くありましたけれども、正直言いまして、社会教育委員会は、個々には貴重な発言があるんですが、全

体として、具体的にどうしているのかが、もっともわかりにくい審議会のひとつという印象を持っておりました。それを持って公募したということもありますが、公募委員の役割というのは、教育委員会の関係者ではなく、市民の立場から意見や提言を申し上げることだろうと思います。企業でずっと監査関係の仕事をしておりましたので、いろいろ注文をつけるというのが私の商売みたいなものですので、いろいろ小うるさい質問とか辛めの指摘になるかもしれませんが、ご理解をお願いいたします。

【提案】

①高齢者のあり方

高齢者の学びと社会参加であるとか、あるいは中高年者が子どもたちにどんなことを伝えたいか、高齢者の社会参加の状況調査だとか、そういうことをテーマとすることは可能かなと思います。

②社会教育委員のあり方

社会教育委員会とはどういうもので、どういう活動をするべきかという点で、時代が変わりつつある中で、新たな見直しが必要なのではないかと思います。いろいろ各市のホームページを見ましたけれども、どこの市も悩んでいる。新しい取組みもどんどん出てきているので、他市の状況等も学んで、我々和光市の社会教育委員としてどういことをやるべきかということを改めてテーマに取り上げて議論するとして、場合によっては、提言のような形でまとめるというのもひとつのやり方かなと思います。

○佐々木委員

専門は、社会福祉に関することで、高齢者福祉に関する仕事に携わっております。

私の住む地域は、新興住宅もあり、赤ちゃんからご高齢の方までが融合する地域でもあります。ぜひ、そういった方々が和光市のいい所を理解しながら、いつまでも和光市に住んでいたい、ここで子育てがしたい、最後まで和光市に住んでいたいという気持ちになれるような、そういった取組みに少しでも協力できたらと思っております。

そして、この委員には、様々な多職種の方々がいらっしゃるので、いろいろ勉強させていただきたいと思っております。

○村山副議長

現在、和光市との協働事業として、子どもたちを対象とした「かけっこ教室」、「テニス教室」、また高齢者を対象として「グランドゴルフ教室」も3回行い、大会も行っております。

90代の高齢者の方もいらっしゃって、炎天下の中頑張っているらしいです。

でも、皆さんの話の中で私は、そこに参加できる人ではなくて、参加できない人をどうやっていろいろなイベントに参加させてあげて、いろいろなことに触れさせてあげることが出来るのかなと思いました。

子どもたちに関して、難しいことはわかりませんが、体育協会としては、「挨拶を徹底しよう」ということで、教室に参加する際に「お願いします」「おはようございます」「ありがとうございました」という挨拶をするよう子どもたちに伝えていきます。しかし、親自体が、遅れてきても「すみません」も言わず、焦らせることもなく、立ち話をし、子どもがちゃんと受付が出来ないと、親が出てきてすべてやってしまいます。

体育協会としては、基本的なことがしっかりでき、はっきりと自分の気持ちを言えるような

子どもを育てていきたいと思っております。

「レクリエーション教室」では、健常者と知的障害の方と一緒にゲーム等を行っています。知的障害の方々には、健常者と一緒に活動することをすごく望んでいて、健常者としての接点を持ちたいのかなと感じるので、体育協会の活動としては幅広くなってしまうけれども、こういった形でやっていきたいと思っております。

私たちが出来ることをやることが、ひとつの協力かなと思っておりますので、何かありましたらお声掛けください。

○石山議長

ボーイスカウト和光団は、小学校1年生から社会人(25歳まで)の児童青少年男女と、指導者を含めて、おおむね100名の団体です。野外活動を通して、青少年のリーダーシップ・協調性・社会性を育む等の活動を重ねております。他のスポーツ団体等と比較しますと、技術や体力、スピード等を競うことなく誰でも自分のペースで挑戦します。又、日本ジャンボリー、世界ジャンボリーへの参加の道が有り、国際交流を促進するプログラムが展開され、良き社会人を育てるための活動を重ねております。特徴的なのは、小学生から大人まで、一生ずっと携わることが出来るということです。4月には熊本地震の募金、5月には児童センターまつり、9月には清掃奉仕、10月には赤い羽根の共同募金や市民体育祭奉仕、11月には市民まつり参加、1月にはニッポン全国鍋グランプリの奉仕など、広く市民の皆さまと関わっています。いろいろな活動を通して社会に貢献するべく事業を重ねているところでございます。皆様方と共に協力して、和光市の社会教育の充実に向け寄与して参りたいと思います。

6 閉会